

第3回 学研高山地区第2工区まちづくり検討有識者懇談会会議録（要旨）

日 時 平成29年2月8日（水） 午後2時00分から午後4時00分

場 所 市役所4階401・402会議室

出席者

（参加者）村橋正武、伊藤忠通、増田昇、松中亮治、横矢直和、瀬渡比呂志、
山本昇

（事務局）大西都市整備部長、北田都市計画課長

岸田都市計画課主幹兼学研推進室長

井上都市計画課課長補佐、有山都市計画課課長補佐

矢島学研推進室学研推進係長、松下学研推進室学研推進係員

案 件

テーマ「学研高山地区第2工区の土地利用について」

（1） 第2回懇談会での意見を受けて

①北田原地区の現状等について

②交通ネットワーク形成のあり方について

③農業振興地域制度について（参考）

（2） 学研高山地区第2工区の土地利用について

（3） 土地及び所有者の状況について

（4） その他

配付資料

資料1 「北田原地区の現状等について」

資料2 「交通ネットワーク形成のあり方について」

資料3 「農業振興地域制度について（参考）」

資料4 「学研高山地区第2工区の土地利用について」

資料5 「土地及び所有者の状況について」

参考資料1 関西文化学術研究都市開発計画

参考資料2 交通ネットワーク現況

参考資料3 環境省里地里山パンフレット

開 会

座長挨拶

- ・本日はかなり盛り沢山の案件があり、北田原地区の現状及び交通ネットワーク形成のあり方については、前回の意見を踏まえて事務局で再度整理いただいたもの、そして、土地利用についてが本日の案件。土地及び所有者の状況についても説明があるので、それらを踏まえ、ご意見をいただきたいと思います。

案 件

以下の案件について、各資料に基づき事務局から説明後、参加者による意見交換。

- (1) 第2回懇談会での意見を受けて
 - ①北田原地区の現状等について
 - ②交通ネットワーク形成のあり方について
 - ③農業振興地域制度について（参考）
- (2) 学研高山地区第2工区の土地利用について
- (3) 土地及び所有者の状況について
- (4) その他

意見交換の要旨

1. 北田原地区の現状等について

- ①北田原地区はいろんな産業が既に立地しており、京都府の普賢寺地区とは扱いを変えないといけない。
- ②学研連絡道路が造られるタイミング、かつ、新たな都市創造プランを受けて国が10年ぶりに基本方針を変更しようとするタイミングで、けいはんな学研都市には優れたものづくり企業が立地する地域であるということを参考に、どのような扱いをするのか議論する一番良い時期であると考えます。
- ③研究だけの地域というよりも、これからはものづくりの重要性が議論される時代になってきている。
- ④企業も学研という位置付けを意識され、学研生駒工業会という会の名前の変更や、エリア呼称も学研生駒テクノエリアに変更されている。

- ⑤道路整備による地区内移転が現実的になっている今がむしろ、地区としての今後の将来像を考えていく一つの大きなきっかけになる。道路建設が非常に大きなインパクトになり得る可能性がある。

(主要な意見のまとめ)

北田原地区については、「ものづくりの重要性を学研全体としてこれから考えていきたい」という考え方のもと、将来に向かっての道筋をきっちり位置付けしていくべき。

また、道路整備による土地利用の転換という可能性もあることから、第2工区との関係を考えつつ、整備方針についてもこれから方向付けしていくということを、県や推進機構など、関係機関と協議・相談のうえ、学研らしきのある地域として一定の方向性を示しておく必要があると考える。

2. 交通ネットワーク形成のあり方について

○高山南北線について

- ① 芝庄田線ルートと高山南北線ルートの2路線については重複しており、どちらかを選択することになると考える。
- ② 前回、芝庄田線と高山南北線の2ルートが本当に必要なのか、どちらかで良いのではないかという議論があった。次回、ある程度一定の方向性を示すことができると考える。
- ③ 高山南北線の高山東西線より以北の議論を今の段階でしておく必要性があるのではないか。
- ④ 南北の動線をどうするかは、全体のネットワーク、府県道、市道との関係、都市計画決定の扱い、土地利用との関係など、もう少し議論したほうが良い。
- ⑤ 高山南北線にどの程度の利用者が見込め、利用価値があるのかということは、第2工区の計画にかかっている。第2工区の土地利用の検討がない状態で議論するのは難しい。なお、第1工区からの利用は、ほぼあり得ないと思う。

○高山東西線について

- ① 高山東西線の京都府側（精華・西木津地区）との接続については、府県道や市町道の扱いを踏まえた、きっちりした位置付けが必要。
- ② 精華・西木津地区と繋ぐことは確定して良いと思う。

- ③ クラスタ間の結びつきは非常に大事。高山地区と精華・西木津地区の両クラスターを繋ぎ、幹線のネットワークの軸になるという位置付けを明確に出し、関係主体に呼びかける方向で整理すべき。
- ④ 県道枚方大和郡山線までの延伸については、北田原地区へのアクセス、クラスター間の連携という意味では非常に意味を持つ道路になってくる可能性もある。

○公共交通について

- ① 精華・西木津地区と高山地区を結ぶ公共交通について、具体的な形はまだ見えてこない。
- ② 京都府が計画している連節バスについては、祝園駅～学研奈良登美ヶ丘駅間だけでなく、学研北生駒駅間というルートの可能性もある。また、連節バスだけでなく、ARTのようなものの導入も考えられる。その基盤となる道路については、両クラスター間をしっかりと結びつけるということを考えてほしい。

○その他

- ① 段階的な開発に併せたインフラ整備が良いのか、道路ネットワークを先に整備することで開発が進むのか。インフラ整備にも優先順位を付ける必要があるのではないかな。

(主要な意見のまとめ)

広域交通に対するアクセスのあり方については、提示された各主要道路の役割から、ある程度整理できたと考えられるが、高山南北線の考え方、高山東西線以北も含めた域内交通のあり方については、今後の土地利用計画の議論と合わせて、もう少し詳細に検討していくものとする。

3. 学研高山地区第2工区の土地利用について

- ① 都市的土地利用の定義は理解できるが、自然的土地利用の定義がイメージしにくい。もう少し具体的な検討が必要ではないか。
- ② 生物多様性保全上重要な里地里山選定エリアに隣接している第2工区北側の土地利用については、自然環境若しくは生物多様性保全に配慮するという観点で検討すべき。
- ③ 自然的土地利用という表現に違和感がある。農地や自然を重視した土地利用を目指

す範囲など、定義を少し考える必要がある。

- ④ 自然的土地利用の望ましいエリアが、少し大きすぎるのではないか。土地利用の定義が大きく2つでは大き過ぎる面がある。中間的な範囲ということも考えられるのではないか。
- ⑤ 非常に地権者の数が多い上に土地がまとまっているわけではないので、その辺りも含め、まちづくりの実現性の議論も一緒に考えなければいけない。
- ⑥ 今後の土地利用計画や段階的な整備を検討するうえで、エリアごとの土地所有状況等の資料があれば参考になると思う。
- ⑦ 切土⑤ブロックの南側の土地利用については、高山南北線の議論とも関連してくる。

(主要な意見のまとめ)

次回懇談会において、土地利用の概念の考え方、域内交通と土地利用、事業の実現性など、土地利用のあり方について、引き続き議論を行うものとする。

また、土地利用と整合を図ったうえでの交通ネットワーク、特に南北軸を高山南北線とするのか芝庄田線とするのかという点についても議論するものとする。